

Young Professionals Forum 参加報告

株式会社建設技研インターナショナル 事業本部技術第4部長
技術研修委員会 YPF・YPEP 分科会長 佐々部圭二



1. はじめに

Young Professionals Forum (FIDIC-YPF) は、2003 年 1 月の FIDIC 理事会で FIDIC の正式なフォーラムとして承認された。FIDIC-YPF は、将来のコンサルティング・エンジニアリング産業を担う若手専門家が積極的に意見交換をし、FIDIC 理事会に若手の意見を発信するグループであり、またその議論の場でもある。YPF 設立に至る経緯等については、これまでたびたび会報で紹介されてきたので (Vol.26 No.3 H15.3 等)、ここでは、パリ大会における YPF 会議に焦点を絞って報告する。

大会3日目(9月10日)の午前、24カ国計63名(記帳者)の参加者で YPF 会議が開催され、各国の活動報告や今後の活動についての討議がなされた。議長：佐々部圭二と、モデレーター：Lise Langseth 氏 (スウェーデン、FIDIC-YPF 運営委員)、Enrico Vink 氏 (ニュージーランド、FIDIC-YPF 運営委員) によって、会議は円滑に運営された。

2. 会議の概要

会議の冒頭、議長の佐々部が挨拶し、FIDIC-YPF の目的やこれまでの経緯等を概説した。次いで、モデレーターの Lise 氏が会議の運営方法について説明、FIDIC-YPF 担当理事の Meghji 氏 (タンザニア) が挨拶に立ち、Enrico Vink 氏が FIDIC-YPF の運営委員として FIDIC-YPF の TOR (Terms of Reference) を概説した。

その後6本の基調講演によって、FIDIC-YPF、各国のヤング・プロフェッショナルズの活動等が報告され、アクション・プランの実行状況や今後の活動予定を確認した。最後に2004年コペンハーゲン大会に向けて、YPF 活動の方向性が議論された。講演概要は以下の通りである。

(1) 佐々部圭二：“FIDIC-YPF Web Page-A Powerful Tool for Discussion-”

佐々部は FIDIC-YPF ウェブ・ページについて、TOR やアクション・プランにも触れながらその全般にわたる内容を紹介し、ウェブ・サイトの効果的な使い方や今後の更新予定等について報告した。AJCE の技術研修委員会 YPF・YPEP 分科会が雛形を作成し、これを基に FIDIC 事務局が完成させた FIDIC-YPF ウェブ・ページにつき、会員登録も間近になったことが告げられた時には、会場から感動の声があがった。また、リンクを張った AJCE-YPF のサイトも紹介し、日本の YPF メンバーやその活動内容にも言及した。最後に「今、私たちがすべきこと」と題して、我々若手専門家へのいくつかのヒントが提供された。これを総括すると、次のようであった。

「今、若手専門家にはコンサルタン



ト・エンジニアリング産業にどう貢献できるかが問われている。各メンバーは、自分たちに何が求められているのかを考え、互いに結束し、具体的な行動に移すことが重要である。まずはコペンハーゲン大会に向けて、何をすべきか考えよう。具体的な成果を出そう」

(2) Mr. Allan McConnell : “Young Professionals Exchange Program-It's Important To Consulting...Why ? -”

Allan氏は、AJCEとACEAの日豪交換研修プログラム(YPEP)について紹介した。YPEPの設立から現在に至るまでの経緯に触れながら、これまでの活動実績を詳細に報告された。今年も含めると過去8年間で75名が交換研修した。Allan氏はこの点について、「研修生自体は75名でも、1人が10名と交流すれば、 $75 \times 10 = 750$ 名が交流したことになる」といった「乗数効果」を強調した。

交換研修生の体験談がいくつか紹介され、中でも秋永氏((株)日水コン、YPF・YPEP分科会幹事)のコメントが強調されていた。多くの留学生の感想を総括すると次のようであった。「当初、異なる言語・異なる文化・異なる考え方のため、互いを理解するのが困難であった。今は、互いをよく理解できるようになった。」

「YPEPは日豪の友好関係を向上させる素晴らしい手段の一つである。コミュニケーションをとりながら、互いを認め、理解し合うことを学んだ。新しい友人を作り、新しい経験を積み国際的視点を身につけることで、ビジネスの領域も拡大する。YPEPは今後も継続すべきプログラムである。」

(3) Mr. Roger McLaughlin : “Activities of a young professionals' group : PROGRESS NETWORK (UK)”

Roger氏は、プログレス・ネットワークの活動について報告した。プログレス・ネットワークとは、2001年1月にACE(イギリス協会)が設立した若手技術者のための機関であり、現在約500人のメンバーで構成されている。学生から主任スタッフクラスまで全技術分野を網羅しており、6つのマネジメントチームで編成されている。若手にプロフェッショナルとしてのビジネス・スキルを身につけさせるため、セミナーの開催(広報、

マーケティング、コミュニケーション、リーダーシップ等、主としてソフト技術)、ACE活動への参加、広報活動やウェブ上での意見交換、ロンドン建築博覧会への参加、EYE活動への参加など、多彩なプログラムが用意されている。また、ACEが中心になって運営するEuropean Young Engineers (EYE)の活動を紹介し、EYEはヨーロッパ約15万人の若手技術者を代表する機関であり、1994年にヨーロッパの10ヶ国の間で設立された等説明した。こちらにおいても積極的な活動が展開されており、フォーラムの開催を通じて、相互理解、ネットワークの構築、若手技術者の流動化等、広域的な観点から若手技術者の育成を図っている。

活動報告を聞いて、「自分たちが将来のコンサルタント・ビジネスの担い手である」という自覚と技術者としての自立心の強さが伝わってきた。

(4) Ms. Silke van der Wees and Mr. Sander de Brouwer : “YONRI STILL GOING STRONG”

男女2名から、YONRI(ONRI:オランダ協会が2001年5月に設立したオランダの若手グループ)の活動について報告があった。YONRIには現在約160人の若手技術者が登録されており、女性も多く、4つの部局で構成されている。YONRI独自のミーティングは年2回ペースで開催されており、平均して75名が参加している。ONRI活動へも積極的に関与しており、ONRIのタスクフォースやプロジェクトチームにも参画するなど、発言権も獲得している。

最後にYONRI活動の成功の秘訣がいくつか紹介された。これを総括すれば、YONRIは若手自らが自発的に会議やグループを結成し、ONRIは企業へ若手の参加を働きかけるとともに金銭的サポートを行い、企業は若手の対外活動に理解を示し協力している。

「YONRI－企業－ONRI」の役割分担と連携がうまくいっている点が多いようである。

(5) Ms. Birgitte Koch Jacobsen and Mr. Carsten Toft Boesen : “MANAGEMENT TRAINING PROGRAMME FOR YOUNG PROFESSIONALS (FIDIC 2004)”

デンマークの若手男女2名から、2004年コペンハー

ゲン大会に向けた6ヶ月間に亘るFIDICマネージメント・トレーニング・プログラムが紹介された。議論を通じて、若手のマネジメント能力を引き出し、新しい考え方、技術、心構えを身につけ、コミュニケーションによる問題解決能力を養おうというものである。プログラムの概要は、次のようである。

会議が開催される前の6ヶ月間、インターネットによる意見交換を行う。プログラムはFIDIC委員やファシリテーター(AJCE山下技術研修委員会副委員長を含む)によって監理される。議論の対象は、「成長と利益」、「新技術開発、意識改革、グローバリゼーション」、「経営者精神：パートナーシップ、雇用、株式運用」、「マーケティング」、「組織改革、人的資源の開発」等であり、キーワードは「リーダーシップ、戦略、経営改革、グローバルな視点、国際化」である。いくつかの課題に対

してある期間ディベートをする。ファシリテーターは、これを結論へと誘導する。大会フォーラムでは、プレゼンテーションとディスカッションが行われ、結論が導き出される。最終セッションでは全参加者を対象とした一般討議が行われる。具体的な参加要綱(対象者、料金、申し込み方法等)も示された。

(6) Ms. Lise Langseth : "How do we Interest Young People"

Lise氏からスウェーデンにおける学校教育(小学校高学年)での、ゲームソフト、シム・シティを使った都市計画、自分たちで計画した都市をリサイクル材を用いて模型にする、このようなコンサルティング・エンジニアリングの楽しさを子供に教えることにより、我産業の裾野を広げるという、壮大でありながら地道な努力をしている例が紹介された。